

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和3年5月27日（木）

3. 調査の対象

泉佐野市立長坂小学校 第6学年，全児童

実施児童数（ 47 人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、小学校は国語及び算数，中学校は国語及び数学。

イ 出題範囲は，調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし，出題内容は，それぞれの学年・教科に関し，知識・技能に関する内容と，それらを活用する力や構想を立てて実践し評価・改善する力などに関する内容とする。

ウ 出題形式については，選択式及び短答式に加え，記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に，学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組に関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に，学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より，文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は，整数となっております。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・全国と比較し、無回答率が低い。しかし、正答率が全国平均を下回っているものが多い。

平均正答率（本校 51／泉佐野市 60／大阪府 63／全国 64.7）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問
<p>【話すこと・聞くこと】 ○目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることに課題がある。 1一 津田梅子の二つの業績を明確に伝えるために、【スピーチメモ】と【スピーチ】の練習で上野さんが話した構成の説明として適切なものを選択する。(70.2/77.5)</p> <p>○資料を用いた目的を理解することに課題がある。 1二 津田梅子についての【スピーチ】の練習で、〈資料②〉と〈資料③〉を使った理由の説明として適切なものを選択する。(48.9/74.9)</p> <p>【読むこと】 ○文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することに課題がある。 2一 面ファスナーに関する【資料】の文章が、何についてどのように書かれているかの説明として適切なものを選択する。(68.1/77.6)</p> <p>○思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことに課題がある。 2二 面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する。(72.3/87.5)</p> <p>○目的に応じ、文章と図表とを結ぶ付けて必要な情報を見付けることに課題がある。 2三 面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く。(14.9/34.4)</p> <p>○目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。 2四 面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く。(12.8/29.7)</p>	<p>【書くこと】 ○自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることに課題がある。 3一 丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する。(51.1/64.8)</p> <p>○目的に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。 3二 丸山さんの【文章の下書き】の-----部を【西山さんの話】を用いて詳しく書き直す。(38.3/56.6)</p> <p>【知識及び技能】 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことに課題がある。</p> <p>3三(1)ア 丸山さんの【文章の下書き】の中の——部アを、漢字を使って書き直す。(ころがっている)(63.8/78.3)</p> <p>3三(1)ウ 丸山さんの【文章の下書き】の中の——部ウを、漢字を使って書き直す。(つみ重ね)(44.7/54.4)</p> <p>○文の中における主語と述語との関係を捉えることに課題がある。 3三(2)イ 丸山さんの【文章の下書き】の中の_____部イで、_____部「残されています」の主語として適切なものを選択する。(42.6/67.0)</p> <p>○文の中における修飾と被修飾との関係を捉えることに課題がある。 3三(2)オ 丸山さんの【文章の下書き】の中の_____部オで、_____部「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する。(36.2/43.6)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか。	55.3	58.4		3.1
国語の勉強は大切だと思いますか。	95.8	93.2		2.6
国語の授業の内容はよく分かりますか。	72.3	84.2	○	11.9
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	97.9	91.8	◇	6.1
国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか。	83.0	82.2		0.8
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか。	78.7	63.8	○	14.9
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか。	70.2	71.6		1.4
国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか。	80.8	74.3	◇	6.5
今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか。	95.8	97.5		1.7
解答時間は十分でしたか。	72.3	70.3		2.0

○自分の考えをもてきている。

○無回答率が少ない。

○目的に応じて資料を選択することに課題がある。

○漢字・文法が苦手。

○たくさんある資料の中から必要なことを書くことに課題がある。

○問題の意味理解が苦手である。

○いくつかの文章をつなげて文章化することに課題がある。

○資料から文章化することに課題がある。

○「国語の授業の内容はよく分かりますか。」の質問に、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答している児童が72.3%となっており、国語の授業の内容の理解度が低い。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国と比べて上位層や中上位層は少なく、中下位層が多く分布している。

平均正答率（本校 55／泉佐野市 68／大阪府 70／全国 70.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問
<p>○1（1）二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。(48.9/62.6)</p> <p>○1（2）速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができるかどうかをみる。(80.9/86.7)</p> <p>○1（3）速さを求める除法の式と商の意味を理解しているかどうかをみる。(38.3/55.8)</p> <p>○1（5）速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができるかどうかをみる。(72.3/85.1)</p> <p>○2（1）三角形の面積の求め方について理解しているかどうかをみる。(25.5/55.1)</p> <p>○2（2）複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができるかどうかをみる。(59.6/72.5)</p> <p>○2（3）複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。(29.8/46.0)</p>	<p>○3（1）棒グラフから、数量を読み取ることができるかどうかをみる。(87.2/95.8)</p> <p>○3（3）データを二次元の表に分類整理することができるかどうかをみる。(44.7/67.5)</p> <p>○3（4）帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる。(31.9/52.0)</p> <p>○3（5）集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができるかどうかをみる。(57.4/73.9)</p> <p>○4（1）示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができるかどうかをみる。(66.0/83.0)</p> <p>○4（2）商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができるかどうかをみる。(36.2/55.2)</p> <p>○（3）小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準値を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。(29.8/51.5)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
（2）算数の勉強は好きですか	61.7	67.8	◇	6.1
（56）算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	61.7	73.9	○	12.2
（57）算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	70.2	82.7	○	12.5

- 示された除法の式が1分間あたりに進む道のりを求めるための式であることは理解しているが、求めた商を比べたとき、数値が小さい方が速いと捉えることに課題がある。
- 三角形の面積を求める公式について理解し、必要な情報を選び立式することに課題がある。
- 項目の一方は捉えられるが、両方を捉えて考察することに課題がある。
- 基にする量に対する理解が低く、立式することに課題がある。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種類別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
家庭・地域生活	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣に課題がある。 （朝食、スマホ、就寝・起床時間） ○読書が習慣化されていない。 ○自己肯定感は全国より少し低い。 ○地域行事に参加する児童は全国より低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝食を毎日食べている。 (78.7/94.9) ○携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束を守っている。 (42.6/70.1) ○毎日、同じくらいの時刻に寝ている。 (61.7/81.2) ○毎日、同じくらいの時刻に起きている。 (83.0/90.4) ○学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）読書をする。 (46.8/76.0) ○自分にはよいところがあると思う。 (72.3/76.9) ○今住んでいる地域の行事に参加する。 (40.4/58.1) ○地域や社会をよくするために何をすべきか考えることはありますか。 (38.3/52.4)
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習に課題がある児童が多い。 （学習計画、土日の学習） ○習い事をしている児童の割合は全国とほぼ同じである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家で、自分で計画を立てて勉強する。 (55.3/74.0) ○土曜日や休みの日に勉強する。 (66.0/89.8) ○平日30分以上勉強する。 (68.1/87.0) ○学習塾や家庭教師の先生に教わっている。 (76.6/78.3)
学校生活	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめに関する児童の意識は全国平均を下回っているが、意識は高い。 ○他人を思いやる心や社会貢献に対する意識が高い。 ○ほとんどの児童が学校を楽しみにしている。 ○自分の思いを表現することに課題がある。 ○学校は、児童の実態に応じた授業を提供できている。 ○自分の考えを発表したり、自分の考えを深めたりすることが前回より改善傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめはどんな理由があってもいけないと思う。 (95.7/96.8) ○人の役に立つ人間になりたいと思う。 (100/95.5) ○学校に行くのは楽しいと思う。 (83.0/83.4) ○自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる。 (51.0/70.3) ○5年生までに受けた授業は自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。 (85.1/81.4) ○学校の友達との話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。 (83.0/78.8)

本校のとりくみ

◎これまでのとりくみ

1. 基礎基本の学力の定着

◇長坂タイム（始業前15分）のとりくみ

国語（漢字+α）・算数（計算+α）

◇学習規律の確立

「長坂小！みんなの学習ルール」「聞きとり名人あいうえお」「話し方名人かきくけこ」

「立腰・ゲーパタピン」（姿勢の保持）など適切な学習態度・行動を促す。

◇復習テストの実施（4月，11月，2月）

前学年までの既習事項を確認することで児童の実態把握をし，つまずきやすい単元を発見して，授業改善を行う。

◇ノート指導

見やすいノートの規準を示し，考えを整理し思考が見えるノートを書く指導をする。

◇わくわく学習会

週1回放課後学習会（希望参加）を設定。集中して学習する姿勢を身につけ，算数・国語の基礎基本問題を解き，自分の課題を克服していく。また，応用問題に触れる機会をつくる。

2. TT（チームティーチング），少人数指導・少人数習熟度別指導

◇学習内容によって，学びの形態を変え，よりわかりやすい授業，個別課題に対応する授業を行う。

3. 宿題・家庭学習の徹底

◇家庭学習の習慣化を促す「家庭学習のてびき」

家庭での基本的な学習や生活習慣を示す。「ばっちりウイーク」を設定し，家庭と連携する。

4. 指導力の向上

◇思考力を高める授業

思考力を高める手立てとしてホワイトボードを活用し，自分の考えを表現させることや，ホワイトボードに考えを整理して書くこと，ペアやグループなどで考えを共有し，自分とはちがう考えを認めることや考えを練りあげる活動を取りいれている。

◇読解力を高める授業

“説明文の部屋”を活用し，説明文で書かれた文章を構造的に理解し，筆者の主張や大切なことがどこに書かれているか理解できるようにする。

◇ユニバーサルデザインを意識した授業づくりのスキルを高める

上記の研究と並行して教室環境の整備，授業の流れやめあての明示とふりかえりの徹底，実物投影機やクロームブック等のICTの活用，板書の工夫，聞きやすい説明の方法，意欲を高める評価方法など，実践交流を行い，研究通信により情宣する。

◇学力向上アドバイザーの配置

子どもの学習相談や課題のフォロー，職員の授業力アップに資する人材の活用により，学力課題に対する組織的とりくみ支援と個別支援をすすめる。

◇算数サポーターの配置

授業中の個々のつまずきに適宜対応できる個別支援をすすめる人材の活用。

5. 学級集団づくりと生徒指導

◇子どもたちの人間関係を把握し，安心して自分が出せ，ともに学習していく学級経営の研究と実践を行うとともに，一つひとつの生徒指導上の事案についてケース会議を実施する等，学校総力をあげて心の安定を図る。

◇「いいね」や「OK」など子どもの活動を認める声かけをして，自尊感情を高める。

◇泉佐野市アセスメントシートの活用や通級担当者との連携，巡回相談を活用することにより，子ど

もの実態を丁寧に把握し、適切な支援や指導につなげていく。

◇研究主題である互いに認めあえる子どもの育成に向けて、「人とのつながり」「地域とのつながり」を意識した人権総合学習、地域学習を展開する。

◎これからのとりくみ

本校の課題として、多くの情報から内容を理解し必要な情報を抜き出す『読解力』、聞かれていることに対して読みとった情報をもとに適切に答える『表現力』、テレビやスマホの視聴時間、就寝・起床時間などの『生活習慣』にあることが分析を通してわかった。

読解力を育てるとりくみ

- ・絵本の読み聞かせや並行読書（学習で取り扱っている教材の作者の作品や関連する書籍をすぐに読めるところに置いておく）にとりくみ、本を読む機会を増やし、読むことに親しむ。
- ・職員で本の帯を作成し図書室に掲示する。身近にいる教職員が紹介することで本への興味・関心を高める。
- ・説明文を読んで文章の要約をする。説明文の部屋を活用し文章の構成を理解し、筆者の主張や、大事な部分を押さえられるようにする。
- ・読み取りに必要な語彙力の向上をめざす。そのために、基礎的な力となる漢字の習得をめざす。漢字と絵や意味を結び付けることにより定着をはかる。また、漢字支援ワークのプリントなどを用いることにより漢字を書ける読める経験を積み漢字を覚えられるよう工夫する。
- ・文章題から読みとったことを、具体的な場面と対応させ指導する。
- ・公式を用いる上で、不要な辺や線分の長さを示した図を提示し、求積のために必要な情報を選び出すようにする。
- ・グラフから、最大値、最小値、差、割合、全体の特徴などを読み取る活動を取り入れる。

表現力を育てるとりくみ

- ・自分の考えを単語で答えるのではなく文章化する。文章化する手立てとしてホワイトボードを活用し、一人ひとりが自身の考えを表現できるよう指導する。
- ・本時のめあてを明確に示し、学習のふりかえりの際に自身の学んだことを具体的に書けるよう指導する。
- ・スピーチの機会を設定し、相手に自分の考えや思いが伝わるようスピーチメモの構成を工夫する。また、伝えたい内容を精選し、わかりやすく簡潔に表現できるようにする。
- ・自学自習につながる自学ノートについて、具体的な型を示すことにより、主体的に自学ノートの作成ができるようにする。主体的な学習から自分の調べたことや考えたことを表現できるようにする。
- ・文法について低学年から繰り返し学習する。自分や友だちが書いた文章を読み返し、校正できるようにする。漢字については繰り返し学習し、定着を図る。学んだ漢字を文章の中で正しく使えるように指導する。
- ・グラフから数量を比べ、特徴に着目して読みとったことを表現できる活動を取り入れる。

生活習慣の改善

- ・委員会活動と連携し生活習慣の改善について子どもたちから発信し、より身近な問題として捉えられるようにする。
- ・ばっちりウィークに継続してとりくみ、学校と家庭が連携し、子どもの生活習慣や学習習慣を見つめ直す機会とする。家庭から励ましの声を書いてもらい、子どもの意欲につなげる。
- ・3つの生活目標『自分からあいさつができる子』『時間を守る行動ができる子』『机や教室の整理ができる子』に継続してとりくむ。
- ・授業で眠育にとりくみ睡眠の役割や大切さに気づく。
- ・スマホの使い方について外部人材を活用した出前授業を取り入れる。